

研究主題

義務教育 9 年間を見通した小中連携について

I 主題設定の理由

笛川ブロックは4年前の小学校4校の統合により、小学校1校、中学校1校となった。同じ地区で学ぶ児童・生徒をともに教育していくという立場から、小学校・中学校の共通課題や今日的な課題に迫る学習会や授業参観、交流会を計画し、実施していく。また、研究会を通して教師間の連携を深め、地域の児童・生徒をより理解しながら効果的な教育活動を目指したい。

II 研究の内容

1 第1回ブロック交流研究会

- (1) 日時 令和元年8月7日
- (2) 場所 笛川小学校 図書室
- (3) 目的 中学校に導入が予定されているタブレットの有効な活用法を学ぶ。
- (4) 内容 前半はベネッセコーポレーションより講師を招聘し、学習支援ソフト「ミライシード」を使用しながら、個別学習・協働学習・一斉学習での操作方法を体験できた。後半は、小・中9年間を見通した学習内容の系統表の完成に向け、追加や修正を行い内容の向上に努めた。



2 第2回ブロック交流研究会

- (1) 日時 令和元年11月6日
- (2) 場所 笛川中学校 美術室
- (3) 目的 作成した9年間を見通した教育課程の系統表を用いて、共通理解を図る。
- (4) 内容 算数・数学科、英語科、総合的な学習の時間、特別活動の4つの各作業グループが系統表作成上のポイントや、詳しい内容の説明、成果や課題を発表し、全教職員が系統表を活用できるような報告会とする。

3 第1回ブロック交流研究会

(1) 日時 令和2年2月19日

(2) 場所 笛川小学校 各教室

(3) 目的 小学校の授業を参観し、主に6年生の情報を交換することで、中1ギャップ解消の手立てを探る。

(4) 内容

学年	授業者	授業内容	場所
1	笠井 裕弥	音楽『おとをあわせてたのしもう』	1年教室 (1階)
2	上野 瞳	英語『顔や体のぶぶんの名前をおぼえよう』	2年教室 (1階)
3	武井 有衣	道徳『たつきゅうは4人まで』	3年教室 (2階)
4	武井 文明	社会『みんなの街づくり』	4年教室 (2階)
5	内藤 健	国語『わらぐつの中の神様』	5年教室 (3階)
6	向山 潤	社会『日本とのつながりの深い国々』	6年教室 (3階)
こだま	武井 敏江	国語『説明文と漢字』	こだま (2階)
ことのね	真坂 茂子	国語『漢字の学習』	ことのね (2階)

授業後の協議 6年生の様子についての情報交換
今年度の総括と来年度の研究について

III 成果と課題

1 成果

- ・夏の学習会では、講師の先生よりICTを用いた先進的な授業の様子を学べた。
- ・小・中同様の形式で授業の振り返りを行うことで、生徒の家庭学習へのハードルが下がり、中1ギャップの解消の一助となっている。
- ・全員が毎日自主学習ノートの提出ができることは素晴らしい。継続した取り組みの成果と言える。
- ・学校間の交流が増えることで、小学生も中学の教員を知る機会となる。安心して中学に入学できることにつながるのではないかと。
- ・9年間を見通した系統表を協働して作成したことにより、小学校の学習内容、中学校の学習内容をお互いに知ることができた。指導の際のポイントを絞れたり、内容を発展させたりするために役立つ。
- ・授業参観では小学校のタブレットの使用の実態を見ることができた。中学校でも導入されたら効果的に使用したい。

2 課題

- ・夏の学習会は、中学校が関東大会の時期と重なり、全員の参加ができなかった。
- ・3年間の小中連携の指定は今年度一区切りを迎えるが、1小学校・1中学校の利点を生かし、合同学習会のような形態で今後も共に学ぶ機会をもつ。地域の児童生徒を皆で育てていくことが大切。

(ブロック長 古屋 友香)